

令和7年8月7日

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大阪情報ITクリエイター専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大阪情報ITクリエイター専門学校、学校関係者評価委員会は、令和6年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

1. 実施日

令和7年8月7日（木）

2. 学校関係者評価委員

長谷川 徹 氏（株式会社 オーティエス 取締役社長）
八尾 一廣 氏（株式会社 MC企画 管理部開発課主任）
西端 一晃 氏（株式会社 プロモ 副部長）

（事務局）

宮路 信美（大原学園難波校 校長）
藤川 宏明（大原学園難波校 部長）
山本 省二（大原学園難波校 課長）
川上 譲司（大原学園難波校 課長代理）
川畑 増知（大原学園難波校 課長補佐）
富山 悠生（大原学園難波校 課長補佐）
田村 裕一（大原学園難波校）
上熊須 展（大原学園難波校）

令和6年度自己点検・評価の概要

(事務局)

大阪情報ITクリエイター専門学校の2024年度における自己点検・評価に関しては、全般的に良好な結果であった。

学校運営においては、教育理念に基づく運営方針が明確に定められており、その理念に基づいた、事業計画の策定や意思決定システムが確立されており、各種研修制度の整備が進められ、有為な人材の育成が実現されている。

さらに、予算の計画および執行が規定に基づき適切に行われており、財務状況も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、重点課題に掲げた「退学率の低減」「学生相談」「課外活動に対する支援体制の整備」の3点についてご助言を頂戴し改善に努めてきた。

最重要項目として位置付けている「退学率の低減」については、過去5年間の退学者の傾向を分析した上で、さまざまな対策を講じてきた。近年の主な退学要因としては、病気や障害などの特記事項を保有している学生が多いことが判明している。これらはセンシティブな個人情報であるため、状況の把握が遅れやすく、それが退学に至る一因となっていた。こうした課題に対応するため、入学前および入学時点で学生に関する情報を確実に把握できる体制を整備した。また、在学中には予防的な面談を定期的に行うとともに、保護者との連携を強化することで、継続的な支援を実施している。

その結果、昨年は4年間続いていた退学者数の増加傾向を抑え、減少へと転じさせることができた。一方で、これらの取り組みによって担当者の負担が増加している現状もあることから、今後は業務の効率化や支援体制の見直しなどを含め、より持続可能な運営を目指してさらなる改善を図っていく方針である。

2025年度においては、多様性を見据えた受け入れ体制の確立、および受け入れた学生を確実に就職へ導くための指導ノウハウの向上が急務である。これらの課題に対応すべく、新たな重点目標を以下に掲げ、なかでも留学生の就職指導を最重要課題とし、教育環境の充実に向けた各種取り組みを実施する計画である。

令和7年度 重点目標①

就職率の向上が図られているか

<現状・達成指標>

達成度合 80%

日本人の就職実績は良好であるが、近年増加傾向にある留学生に対する就職実績および指導内容について、日本人と同等のノウハウを全職員が習得し、確実な就職支援体制を構築することが急務であると考えている。

<具体的方策>

- ①就職部を通じて、留学生の受け入れが可能な企業の調査を実施中
- ②日本語能力試験取得に向けたフォローを実施中
- ③日本人とのギャップを把握する

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

採用意欲が高い企業が少ないのが現状。中小企業などは採用も不慣れなため、中小企業が集まるイベントに参加し接触してみると良いと思う。

(MC 企画 八尾委員)

就労ビザの問題が大きい。芸能プロダクションや養成所でも就労ビザの関係で外国人（留学生含む）が長くいることができないのが現状である。外国語を使える人材の需要は近年増えている。特に今年は万国博覧会の影響も大きい。映像を作っていく側として外国人の需要は増加しているが、前提として日本語を理解できていないといけない。理解能力がないと人に伝えることもできない。しかし、留学生であっても就労に関するビザを個人でクリアできるのであれば、仕事を得ることはできると考える。

(プロモ 西端委員)

日本人の就職実績は評価できる。一方で留学生に対する就職ニーズは増えつつあるが採用に関しては難しい。

Web 業界では中国人が増えつつある。また、ベトナムへ仕事を発注する等の業務もあり、橋渡しの位置づけでのニーズがある。

但し、採用に至っては、日本語能力検定取得は必須だが、語学力だけではなく、円滑なコミュニケーション能力が重要視されている。また、日本文化や仕事理解も求められるため、学校のルール理解、遵守できる学生が求められていると考えます。

令和7年度 重点目標②

退学率の低減

<現状・達成指標>

達成度合 70%

全退学者の約 85%は、入学時点で精神疾患または起立性調節障害を有していた者である。入学に際しては、保護者および本人とともに、進級・卒業要件について十分に確認のうえ受け入れている。しかしながら、容体が悪化した場合、学校としての対応が極めて困難となり、結果として退学を見守らざるを得ない状況にある。

<具体的方策>

- ① 入学前に当該状況を把握した場合には、保護者を含めた関係者に対し継続的に情報提供を行い、入学が本人にとって真に幸福につながるか十分な議論を行っていただく。
- ② 入学後においては、学校・本人・保護者の三者間で連携を密にし、通学の継続が可能となる体制の維持に努める。

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

入学前・入学後の面談といった具体的な取り組みの方策は評価できる。退学要因の多くが入学時点の精神疾患や起立性調節障害に起因するため、入学前から保護者・本人・学校で十分に情報を共有し、適切な進路選択を検討する場を設けることが望ましい。外部医療機関や専門カウンセラーと連携し、悪化兆候の早期発見・対応を行えるとなお良い。

(MC 企画 八尾委員)

具体的方策は継続頂きたい。学生本人が求めるものを確認し、それに寄り添えるところは寄り添うのが良いと考える。昨年度と同様になるが、学生指導（対応）を複数の大原職員で行った方が良いと考える。声優俳優系コースの様に担任（大原職員 1 人）と非常勤講師だけでなく、授業は担当しなくても学生がコミュニケーションを取れる大原職員がいた方が良い。また

精神疾患がある学生に対してはスクールカウンセラー（非常勤でも可）を置くことも検討した方が良いと考える。

（プロモ 西端委員）

早期に状況把握し、事前に必要な情報を提供する。また、保護者と連携し通学の可能性を熟考した上で入学させている体制は、非常に良いと考えます。

採用面接の状態では、症状がわからず、あとで手帳を持っていて精神的にしんどくなり退社にいたった社員もおり、見極めは非常に難しい。面接で見ているポイントとしては、ゆっくりでもハキハキ話をする。大きく見せようと過剰にアピールしていないか。などを確認しているが、決定的要因ではないので、円滑なコミュニケーションが取れるかがポイントになるかと考えます。

令和7年度 重点目標③

ボランティア活動

<現状・達成指標>

達成度 50%

人格の陶冶を図る上でボランティア活動の有用性は十分に認識しており、学校としては組織的な取り組みの一環として、日々近隣地域の清掃活動を実施している。また、マンガ・イラスト分野においては、「天神祭」や「浪花区民まつり」など地域のイベントへの参加を通じて、来場者への似顔絵の提供や巫女さんをモチーフにした等身大パネルを寄贈するなど、長所を活かした地域イベントへの貢献にも積極的に取り組んでいる。

<具体的方策>

学校として、近隣清掃などの体制がととのっており、大阪府から提供される情報を周知案内する体制が整っている。一方で、マンガ・イラスト系以外の分野においては、組織的な取り組みができておらず、個人単位の活動にとどまっている。今後はそれぞれの専門性を生かした地域連携の導入を模索していきたい。

<学校関係者評価委員からの提言>

（オーティエス 長谷川委員）

地域貢献活動はマンガ・イラスト分野で顕著な成果を上げている一方、他分野では個人活動にとどまっているため、今後は各分野の専門性を活かした活動を計画的に展開し、全学的な地域連携体制を確立することが重要と考える。近隣清掃を地域と連携した取り組みに発展させていくと教育効果も高まると思われる。

（MC 企画 八尾委員）

近隣清掃などのボランティア活動は継続したほうが良いと考える。

マンガコースが地域のイベントを積極的に参加している為、声優俳優系コースもイベントや商店街の司会など可能であれば一緒に参加出来たら良い。クリエイターコースも作成したものを発表する場があるので、コースの垣根を越えてアフレコや司会やアナウンス協力できると良いと考える。他校では学生バンドや歌手が出演するフェスに学校として参加し、声優コースが司会を担当しているところもある。学校として地域のイベントに参加することで学生は経験を積み、イベント主催側もプロだと費用がかかるが、学生がボランティアで参加すると費用がかからず、お互いメリットがあると考え。単独での新規開拓は難しいかもしれないが学校としてマンガ・イラスト、クリエイターとともにイベントに参加するのを検討してもらいたい。

(プロモ 西端委員)

近隣周辺でのボランティアだけでなく、地域イベントに参加されているのは良いと考える。クリエイターの分野でのボランティアは難しいが、地域貢献の観点からは、学校に来て頂いて体験し地域の子供たちに貢献する方法を検討されてはいかがでしょうか。パソコン体験、ドローン体験、など夏休みイベントの一旦を学校に担って、学生が教えるようなことができれば、ボランティア貢献になりうるかもしれません。

全体評価と総括

(学校関係者評価委員)

今年度重点的に取り組む項目として「就職率の向上が図られているか」「退学率の低減」「ボランティア活動」をあげられている。委員からは、就職率向上について、日本人の実績は高く評価される一方、留学生の就職支援体制の整備が急務であるとの指摘があった。特に中小企業や外国人採用経験の少ない企業への働きかけ、日本語能力・コミュニケーション力の強化が重要とされた。退学率低減では、入学前後の面談や情報共有体制は評価され、外部医療機関やカウンセラーとの連携、複数職員による支援の必要性が示された。ボランティア活動では、マンガ・イラスト分野の地域貢献が顕著とされつつ、他分野への拡大が課題とされた。他のコースが連携し、地域イベントや体験会など幅広い形で貢献することで教育効果や地域との信頼関係が高まるとの意見が多かった。総じて、現行の取組は評価されつつも、分野間の格差是正、外部連携の強化、多様な活動機会の創出が今後の発展に不可欠とされた。

(事務局)

本校は委員からの評価と提言を踏まえ、留学生就職支援体制の更なる充実を図る。具体的には、中小企業や外国人採用経験の少ない企業との接点を増やし、日本語能力・コミュニケーション力向上の指導を強化する。また、退学率低減に向け、入学前の適正判断と情報共有を徹底し、複数職員での支援体制を整える。ボランティア活動では、マンガ・イラスト分野に限らず他のコースが参加できるイベントなどがあれば参加し、これらの取組を通じ、学生の社会的成長と地域貢献を両立させる教育環境を整備していく。

文責：川畑 増知